

本号のトピックスは①日本医師会長に横倉義武氏が当選—第126回日本医師会定例代議員会—(宮城信雄会長)、②女性医師支援事業連絡協議会(沖縄県医師会女性医師部会 松原忍委員)、③県民健康フォーラム「誰も教えてくれないタバコの真実」(玉井修理事)、④地区医師会役員決定です。①と④については記事をご覧ください。

巻頭に小渡敬前副会長、大山朝賢前常任理事、當銘正彦前理事の退任のご挨拶が記載されています。各々10年間、9年間、4年間ご苦労様でした。広報委員もやっと慣れてきたと思ったら2年の任期が終了いたしました。前回の医師会館建設検討委員会(平成18~20年)の時も委員になって始めて医師会の仕事を少し理解したような次第です。病院、開業の先生方もお忙しい時間を割いて医師会活動をされていることには頭が下がります。原稿作成中に北朝鮮がミサイルの打ち上げに失敗しました。韓国でさえも成功していない人工衛星(ミサイル?)の打ち上げ失敗は予測されていましたが、問題は日本の緊急連絡体制の不備です。発射前には政府によるJ-ALERT、Em-Netによる迅速な連絡が報道されていましたが、結局どちらも機能せず打ち上げ失敗は政府の報道よりもネットの情報が先行しました。昨年の上野原事故でSPEEDI(緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム)が全く役に立たず、今になっても情報をすべて公開してはいません。SPEEDIの情報が速やかに公開されていれば、わざわざ放射能が高い地域に向かって避難した人はいなかったはず。今回の北朝鮮のミサイル発射も防衛省大臣が報告するまで46分かかっています。ダブルチェックに時間を要したとの弁ですが、着弾してから警報を発しても意味がありません。優れたシステムを持っていても運用する人が無能だと宝の持ち腐れになる良い例です。早急に日本の危機管理を見直す必要があります。

さて、今回の表紙を鮮やかに飾った Butchart gardens は gardens で表記されるようにいくつもの庭で構成されており、一日で見きれないほどの大庭園です。Vancouver, Seattle に行く機

会があれば是非訪れてください。一見の価値はあります。琉球大学医学部の女性の比率は現在の5年生が33%、6年生が40%を占め、女医の復職や勤務の継続のための環境整備は女医ばかりでなく医療全体にとって重要な課題です。日本の女医の勤務継続率は、県議会、市議会議員の女性比率と同様に先進国の中でも低く、この率を先進国並みに上げることは医師不足の解消につながります。「現状を変えることは文化を変えること」と印象記に書かれていますが、私たち全員が努力すれば必ず達成できると信じております。本年4月に琉球大学敷地内に東洋最大クラスのシミュレーションセンターが開設されました。医学教育の充実による沖縄の医療レベルの向上に加えて研修医の定着も期待されます。

県民健康フォーラム「誰も教えてくれないタバコの真実」では「タバコは百害あって一利もない」にもかかわらず、タバコ販売促進によりニコチン依存者を増やし利益を追求するタバコ産業の情報操作の巧妙さが記載されています。米国内でタバコを販売すると巨額な賠償金を要求される可能性があることから、米国のタバコ産業は海外に販路を拡大しようとしています。米国にとってタバコ産業を保護するために海外で販売を増やすことは当然のことであり手前勝手の理論です。鯨油採取のために欧米が鯨の捕獲をはじめましたが、今では過去を忘れたかのように捕獲禁止を唱えており、グリーンピースをはじめとする環境テロリズムも過激になってきています。彼らがヒトに有害なタバコの禁止を訴えないのが不思議であり、彼らの手前勝手な主張に注意しなければいけません。宇座先生が随筆「確かな情報で正しい判断を」で述べられておられるように、情報の選択と情報操作を批判的に見ることが今後ますます重要になると考えます。

「私にとっても良い経験になった2年間でした。」とお礼の編集後記を書いておりましたらもう1期と言うことになりました。引き続きよろしく願いいたします。

広報委員 金谷 文則